

「吉塚ゆりの樹に改名し、玄海・地島のゆりの樹が誕生して3年目、いよいよ3歳

ゆりの樹幼稚園も新しい世界に入園する希望に満ちた年です。

輝く未来に向かってホップ・ステップ・ジャンプと飛躍の年になりますように」

——その為にも自分の感情に気づき、自己決断し、自分が大好きで
最後まで自分を信じていることが出来る教育をめざして——

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

さわやかな春風とともに新しい年度がやってまいりました。
ご入園、ご進級を心よりお喜び申し上げます。
何もかも新しい仲間が増え、一番大変な時期でしょうと周りからはねぎらいの言葉を多く頂戴しますが、子ども達も、教師も、保護者の方も最も成長することが手に取るように見ることが出来る私の一番大好きな季節です。
何だか心がワクワクするような、心改まる、やっぱり日本の入学時期は4月だなあと改めて思う、そんな4月です。



今、園児達、保護者の皆様、先生という、素晴らしい吉塚幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。少し大人びた進級生、新しい園児達、保護者の方を迎えて、そして先生達と共に歩き始める新年度のスタートです。胸にいっぱい希望があふれてくるような感じがします。今年はこのメンバー、園児、保護者、先生であることの必要性がきっとあるはずです。だから、この仲間であったことに、「**当たり前前に、ありがとう**」と素直に感謝して、「**ごめんなさい**」の謙虚な心をもって、「**わかりません。教えて、助けて**」が言える正直な自分であることを忘れないで精一杯生きていきたいと思います。

今、教育で最も大切にしたいのは『生きる力』です。では本当の生きる力とはなんなのでしょうか。生きる力とは、逆境をはねのける力です。逆境が人生のばねになることを、大人は子どもに教えてあげる必要があります、自分自身も常に確認しておくことが大切です。逆境が人生を輝かせるのです。「麦ふみ」というのがありますが、麦は踏むから育つのです。

以前の巻頭言にも書いたのですが、**仏教用語に「守・破・離」という言葉があります。**

1. 「守」とは師の教えをそっくりそのまま守る事。一切師の教え通りにやる。それ以外のやり方は許されない。これは師が長年修練に修練を重ね一つのものを築きあげてきているわけである。ゆえに経験のない者が批判するのは間違いである。先ず最初は、師が「どのような修練のもとに、どのような考え方、どのような態度、姿勢をもっているか」をそっくり学ぶ。言われた事に違反しない。これが基本である。
2. 「破」とは、師のものを自分のものにした上で、そこに自分の新たな工夫、努力を加え「師の教えから少しずつ抜け出し、脱皮していく段階。
3. 「離」とは、自分の工夫、努力により師の教えから逸脱し、さらに修練を加え、自らが一つの境地を築き上げる。という意味である、といわれています。



まずは決まりを守る。先人の教えを守る。そして、それが出来て初めて「型」を打ち破ってごらんというのが個性教育です。人間は、一度は「型」にはめる必要があるのかもしれませんが、どうして「型」にはめる必要があるのかというと「型」とは基本的な人間の生き方の姿勢「**当たり前前**のことを**当たり前前**にすること」であるからです。

狼にぞだてられた「アマラとカマラ」は発見された後、どんなに愛情を持って育てても、人間になれなかったという記録がありますが、人間として育つ時に人間として育たないと人間にならないのです。だから、基本的な人間としての生き方が必要なのです。欲望を満たすことと抑制することが大切です、したらいけないことはしたらいけないのです。皆が席を立ていけないときは席を立たない、「当たり前前」のことに当たり前前、ありがとう」という感謝の心、「ごめんなさい」謝る謙虚な心、「わかりません。教えて、助けて」が言える正直な心という型は人間として生きる基本です。

特に最近ではしてもらって当たり前、少しでも自分の意に沿わないことがあると悪口や文句をいう、そして、カーとして事件が起る、そんな事態になっている気がします。感謝する、謙虚でいる、正直でいる姿勢が足りなくなっている気がします。このような型は人間として一番の生きる基本であるはずですが。

型にはめられながらも個性は出せます。いや、型こそ個性です。なぜなら、型の窮屈さを知ったから初めて個性が出るからです。料理をする時もそうですね。必ず味付けの基本があります。良く言われる所の「さしすせそ」砂糖、塩、酢の順番ですね。

色を組み合わせる時にも基本があります。同系色、これは同じ色に、クロ、シロ、グレーを混ぜた色、類似色とは、色相環の両隣の色、補色とは、反対の対称色の事ですが、この組み合わせは合うと言われています。味つけにしろ、色にしろ、ルールがちゃんとあるわけですね。プロの方が変わった、奇抜な事をされる場合にもこのルールはちゃんとわかって、それに少しアレンジしているのであって、ルールを知らないとか、まったく無視している所からは、人が心地良い、おいしいと言う事は生れてこないわけです。

だから、今一度、生きる基本、愛と思いやりを根底に、厳しさも含めて子ども達に教えてほしいのです。親も教師も。特に親が厳しさを教えることが困難に成っている時代です。

もちろん厳しさと優しさの適宜な密着が大切なのは、教師は承知しておく必要があります。

そして、優しいことは厳しいこと、厳しいことは優しいこと。だからこそ、その上で親や教師には**勇気**を持って厳しさに取り組んでもらいたいのです。そしてそのことが、厳しさになるか、優しさになるか、効果が上がるかあがらないかは、適時、適量を持った言い方になるでしょう。



どんなにすばらしい薬も、適時、適量を間違えると大変なことにつながります。どんな言葉にも致死量があるということを覚えておきましょう。眠れない時に飲む安定剤でも、量が過ぎれば死ぬ時もあります。

こちらの言う事が、どんなに正しくても、その量と濃さとタイミングが一致しなくては、相手の心を殺してしまう事があるということを考えて行動しましょう。

だからこそ、ゆりの樹幼稚園の教育があるのです。新学期にあたり、子ども達のこれからの素晴らしい**未来**の形成のために、再度教育方針の確認をして頂きたいと思います。



★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「**真の自立への道**」(個性性と共感)
- 2に「**知ることの喜びを与えること**」(自己成長の継続と問題解決能力)
- 3に「**感動と思い出を作ること**」(生命の尊重と危機管理能力)

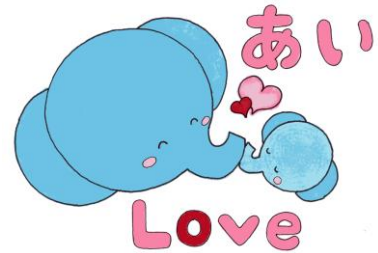


★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

そして、そこにあるのは、本当の意味での、「優しさと厳しさ」です。
その為に必要なのは「**愛**と思いやり」です。

大人の、しっかり子どもを見る目、声を聞く力、子どもの心を感じる力がなくて、その場に応じた「愛と思いやり」ができないと
「五つの過ぎたるかかわり」になってしまいます。



大人の5つの過ぎたるかかわりの結果起こること

保護とは、子どもが望んでいることを、望んでいるときに、望んでいるだけ与えること、
過保護とは、子どもは望んでいるけれど、子どもが自分でやろうとすれば、十分できることまで、安易にこちらが手を貸してやってしまうこと、
過干渉とは、子どもが望んでいないことやりすぎたり、やらせすぎたりすることです。
過期待とは、子どもが自分に期待するのではなく、子どもが出来る以上に親が望むこと
過放任とは、子どもが望んでいる以上に放任する事
過許可とは、子どもが望んでいないのに許可を与える事

この5つに共通する特徴の第一は、愛と注目、承認の不足や欠如、二番目には**選択や決断の大部分に大人がかかわること**で、**子ども自身の「授受の喜びや挫折の体験」が少ないこと**にあります。

本当に自分が何をしたいのか、何を望んでいるのか、自分でわからなくなります。相手の反応だけを見てしか行動が取れないと、相手の承認を求めて、どう回答が正解か、相手が望む正解だけを求めて、褒められる答えだけを求めて、苦しむことになります。

だから、「5つの過ぎたるかかわり」が怖いのです。特に過干渉のつけは青年期などのあとになってやってきます。この5つの過ぎたるかかわりのために、真綿でしめつけられるように子どもは自分をなくしてしまうのです。

この5つの過ぎたるかかわりを打破する方法が「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです

ゆいの樹幼稚園が考える教育の循環

「**自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「**自分が大好きで、自分が信じられる**」教育です。

この教育は、日々の保育だけでなく、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る**自主選択保育「ドリカムタイム」**や子ども達の感覚の鋭敏性、創造力、考える力、柔軟性、感性を培い、視野を広げる、あそびの自由広場「**キラキラタワー**」でのその年齢に不可欠の子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。



子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。



自分で自分を律する(セルフコントロールできる)ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「**小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要**」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。

そして、自分の行動に自信が持て、自分の夢に向かって歩き出すことができるのです。

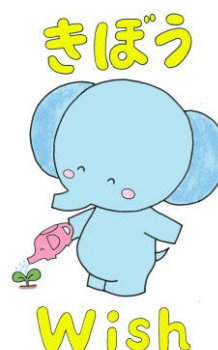
この「セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在

この人間関係の中で育まれるのが、心の教育です。

「**心の教育とは**」ルールを教えるのではなく、**なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事ではみかちと考えています。**



「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。なぜそうしたほうが良いのかを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。「なぜ」を教えないとルールだけを守る人間になるのではないのでしょうか。

『心』を教えないで社会のルールだけを教えると、その人は間違った努力をしてしまうことになります。

もし、子どもが、その事に気付かないで、ただ親や他人の承認を得ようとして言いつけを守るとすれば、その意味がわかっているのではなく、怒られるのが嫌だからしているのであって、理解しているのではないのです。

又、自分のことをわかってくれた時の、ほっとした体験をした時の気持ちが子どもの心を育てます、気持ちよいという心、感情、心地良さを育てる事によって心が育つのです。そして、毎日に希望を持って生きていくことができるのです。

全ての教育は子どもが自分の心に躍動するものがなければなりません。そしてその気持ちをわかってくれた人の言う事を人はきくのです。子どもが自分の気持ちに素直になり、かかわりの中心になった時に初めて心の教育が出来るのだと思います。先生や友達と心をひとつにすると気持ちがいいと感じること、子どもは親、教師や友達とかかわることで自分の存在を確認していきます。



そして、園や家庭生活を通して、子どもは自分の心に修正を加えながら、「**最後まであきらめない心、苦しくても悲しくても、つらくてもそれを乗り越えていく心**」を会得し、自分が自分であるというアイデンティティーを確立していくのです。そして結果として、この地球を自分の足で、自分のシナリオで、自分の足で歩んでくれる子どもに育っていくのだと思います。それが『育てる』つまりは『自ら育つ』ということなのです。

そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きること。

エコ・エンバイロメント

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。

愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりとべる「心のあさごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、「心のウンチ」ができる場所があることが大切です。

しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安な、怒りなどの感情）を出すことができなかったら、抑圧となって、それは変な形となって爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大事です。

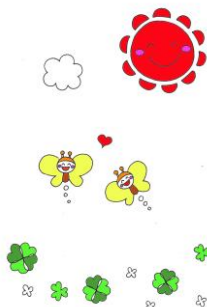
エデュケーション・エモーション



エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、「ゆりの樹の10E」があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされているかが大切だからです。

だから、感情・エモーションに気づくことが一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これでよし」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にして、フリをしなくて済みます。

エンパワメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント



人間力・エンパワメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい（進むべきではなく進みたいという気持ち）が大切、人生はshouldからWillへの転換が大切、他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分はどうしたい」のかという気持ちの替えが大切）が増してきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れることが出来るようになるのです。

結果として、心がリラックスし、どんなことでも楽しんで・エンジョイして取り組める大人に育っていくことが出来るのです。

そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを伝えたい・エンターテイメントなのです。楽しんで、伝えて、伝わったら嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するので

自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずこれれば、最後まであきらめなくて、伝わるまで、伝え続けることもできるようになるのです。それが人生をエクセレントにするのです。

エクスチェンジ

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変れないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。

だからこそ、少しでも行動を変えればいいのです。少しでも行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでもいいのです。自分を客観的にみて、少しでも行動を変えてみましょう。勇気をもって、そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長です。

このことの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。また「あなたメッセージ」→相手の行動を言うのではなく「私メッセージ」→自ら感情に気づいて言葉を発することによってさらに共感が高まります。

このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょう。



そして、さらに素敵な教育集团、よりよき、教師、保護者、大人になるために、去年、出あったこの言葉を大切にしていきたいと思います。

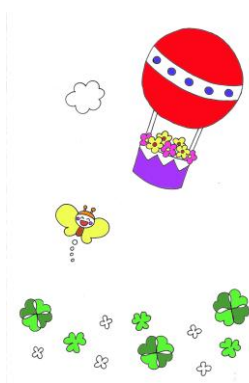
今から、8年近く前、スキーで首から下がすべて麻痺してしまう事故に遭った腰塚勇人（はやと）さんが奇跡的に短期間で回復され、学校（当時、中学校の先生でした。現在は養護学校の先生です）に戻ることが決まった時に決意した言葉だそうです。

- 「口は 人を励ます言葉や 感謝の言葉を伝えるために 使おう」
- 「耳は 人の言葉を 最後まで聴いてあげるために 使おう」
- 「目は 人の良いところを 見るために 使おう」
- 「手足は 人を助けるために 使おう」
- 「心は 人の痛みが わかるために 使おう」
- 「私を 助けてくれた人たちが してくれたことを 今度は 私がしよう」



この言葉を心において、毎日暮らすことができれば、「辛いこと、苦しいこと、悲しいこと、寂しいこと、嫌だと感じること」があっても、いや、あるからこそ、皆で、力をあわせて、輝く太陽目指して、いつでも、どこでも自分自身が輝き続けられるような気がします。そして、いつでも、自分に対して自分を励ます「勇気が出て、夢と希望に向かって歩める魔法の言葉」を使っていきましょう。

望月さんという方のメルマガで知った岡保情報システムズ代表で、行政書士の岡保和秀さんの言葉です。



★★「さすがわたし」★★

さ・・・さえてるね！！
す・・・すごいね！！
が・・・がんばってるね！！
だ・・・大丈夫だよ！！
わ・・・わかってるね！！
た・・・楽しいね！！
し・・・しあわせだね！！

人にはこんな「愛の言葉」をかけていきましょう

か・・・ 感動するね！
み・・・ 見事だね！
さ・・・ さすがだね！
ま・・・ 真似したいね！
十・・・ なるほどね！
イ・・・ いいですね！
ス・・・ 素晴らしいね！



これから起こる出来事には必ず肯定的な意味があると私は考えます。自分にとって必要だからその事が起るのです。過去に生きるから、失敗と後悔があり、未来に急ぎすぎるから、不安と焦りがあるのだと思います。今にいれば結果があるのみです。「今ここ」に生きていれば、失敗はありません。そして、結果を得た後は「今からどうするか」が大切なのだと感じています。

新しい一年が始まります。どんな日々を過ごすかは、全て自分次第です。子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ります。子ども達、保護者の方、そして私たち職員にとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。今年一年間の保護者の皆様のゆりの樹幼稚園に対する、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

